

2019年度 上田市立第六中学校 自己評価シート(中間報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価	
敬・和・創	敬:人を敬い、人から信頼される生徒 和:人を認め思いやり、人と協力して活動する生徒 創:自ら工夫し、納得するまで追究し課題を解決していく生徒	全体を通して、多くの生徒が学校生活に前向きに取り組み、生徒自身の自己評価も良好な状況が続いている。今年も歌声が校舎全体に響き渡り、飛翔祭ではどのクラスも練習の成果を発揮し、成功に終わった。学習面でも、安定した気持ちで授業に取り組んでいる生徒が多い。また、家庭学習では、週末の課題を継続して行い、家庭学習の充実を図っている。昨年度との比較から「時間を意識した生活」「服装などの決まりを守った生活」が目標として挙げられる。登校時刻、始業時刻、下校時刻などわずかな遅れであったとしても守ろうと意欲を高めている。また服装でも体操着の裾を入れたり、名札をきちんとつけたり、身だしなみにも気をつけた生活を心がけている。	
	重点目標		1 さわやかな挨拶、心を込めた清掃、楽しい給食
			2 本気で取り組む合唱、人権感覚の高まり
			3 合唱や人権教育を中核とした開かれた集団づくり

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題(7月アンケートから) ※右の評価は職員アンケート結果	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	生徒指導	規範意識の育成	学校は身だしなみや学校生活のルールについて粘り強く指導しているか。	ほとんどの生徒がルールを守って生活できているが、時々名札を付けていない生徒や体操着の裾を出している生徒がいる。	11%	75%	24%	0%	2学期の重点項目として、全職員・生徒で共通理解で改善していく。
		素直さ・感謝の心を育てる	職員は黙想から始まる無言清掃に生徒と共に取り組んでいるか。また、職員も生徒に進んであいさつをしているか。	師弟同行を大切に考え、職員・生徒ともに無言清掃に意欲的に取り組んでいる。また、あいさつについても良好な状況である。	21%	62%	17%	0%	無言清掃の徹底、自らあいさつできる等について、生徒会活動を中心に取り組んでいく。
		開かれた学校・学級作り	職員は、学級や生徒の良さを認め合い、互いの考えを発表し合える和やかな学級づくりに取り組み、楽しい学校づくりに勤めているか。	学校全般としては、友だちの良さを認めあう雰囲気がある。個々の生徒の事情が異なるので個別の配慮が必要である。	34%	58%	8%	0%	生徒が辛い思いをしたり、弱い立場に立たされていないか、学校生活アンケート等を行い、アンテナを高めて状況を把握し、指導をしている。
	学習指導	分かる授業	職員は学習内容をはっきりと伝えて、丁寧な板書をしたり、机間指導をし、分かりやすい授業にしているか。	「分かり易い授業だ」とする生徒が多く、職員も日々授業改善に心がけている。	34%	58%	8%	0%	単元ごとの定着を大切にしながら、「丁寧な授業」を心がけることを継続する。
		集中して取り組む授業	職員は、授業をチャイムを始め、生徒の発言を引き出したり、活動を入れたりして、一時間の授業に集中して取り組ませているか。	ほとんどの生徒が「集中できている」としている。更に授業に集中できる生徒が増えるように取り組んでいく。	19%	81%	0%	0%	授業では、どの子にとってもわかりやすい授業を展開できるようにUD化の研修に取り組む。
		家庭学習への支援	職員は、授業の終末場面で、授業内容にかかわる家庭学習の助言をしているか。	教科ごとの週末の課題や効果的な家庭学習を行う指導をしている。	27%	42%	27%	4%	授業で学習した内容と連携させてながら、実施していく。
		道徳性の涵養	学校では、生き方や夢の実現について考えたり学んだりする機会を作り出せているか。	「生き方や夢の実現について考え学ぶ」ことができたと感じている生徒が多く、様々な場面で生き方について考えさせることができています。	23%	58%	15%	4%	道徳の教材の発掘や共有化を行うとともに、外部講師による講演等の機会を増やし、他者の生き方に目を向けられる集団づくりに努める。
	教育課程	歌声の響く学校づくり	職員は、学活や昼休みに生徒が進んで合唱するように学級指導に取り組んでいるか。	大多数の生徒が「一生懸命歌えている」とし、自信を持って取り組んでいる生徒が多い。	34%	54%	8%	4%	正確な音で響きのある歌声になるように、引き続き指導を継続する。
		不登校・不適応生徒への支援	職員は、学校生活や授業で困っている生徒の立場になって支援をしているか。	昨年度と比べて、やや達成できなかった割合が増えている。的確な対応を更に心がけていく必要がある。	31%	50%	19%	0%	学年・教科・全校での情報の共有を図り、より良い指導を心がけていく。
		人権感覚の育成	学校では、人権感覚を高めるため、黄色いリボン運動や人権教育で、生徒が自分のこととらえるように指導しているか。	黄色いリボン運動など、積極的な生徒会活動の成果もあり、「人を大切にしている」と答えている生徒がさらに増えている。	36%	60%	4%	0%	黄色いリボン運動の改善を図るとともに、定期的に人権に関わる調査を実施し、実態把握に努める。また、教師自身も日頃の行為を見返していく。
		生徒会活動	学校は、生徒主体の生徒会活動となるように十分に支援しているか。	一人一人が生徒会員であるという自覚を持ち、積極的に参加しているという意識が育ってきている。	30%	59%	11%	0%	生徒が主体的に生徒会活動に参加している姿が多く、当番活動等も欠かさず行っている。今の状況を大切にしながら、教師もより良いものを一緒に模索していく。
	学校運営	地域との連携	愛郷心の育成	学校はふるさとタイム、四者会議などを工夫して、より地域との連携を進めようとしているか。	ふるさとタイムでは地域の方にも手伝っていただく支部があり、つながりを大切にしている。地域行事にも積極的に参加している。	23%	50%	23%	4%
地域から信頼を得る			学校便り、学年学級便りで学校の様子を知らせ、地域の理解を深めるようにしているか。	学校からの情報を定期的に通信に載せたり、HPに載せたりし、積極的な情報発信ができています。	33%	63%	4%	0%	学校・学年・学級だよりの内容を吟味しながら、積極的な発行に努めるとともに、HPの更新を積極的に行っていく。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった